

令和 7 年度 東京都立戸山高等学校学校経営計画

校 長 決 定

I 目指す学校

スクール・ミッション

「自主的・創造的精神にみちた国家及び社会の有為な形成者を育成する」教育目標を通し、探究活動による深い学びを実践し、創造力とリーダーシップをもつ総合的な人間力を育みます。さらに、幅広い教養を身に付け、リーダーとして国際社会に貢献できる人材を育成します。

スクール・ポリシー

1 グラデュエーション・ポリシー

東京都立戸山高等学校では、これからの国際社会でリーダーとしての人財に必要なデータ・ファクト・ロジックによる思考をするための 6 つの力(資質・能力)を育成します。

- (1) 情報活用力(選択する力): 様々な情報から価値あるものを見いだし、それを活用して問題をより良く解決する力
- (2) 探究力(考える力): 物事に疑問をもち、論理的に考え、事実を客観的に分析することで真理に迫ろうとする力
- (3) 情報発信力(伝える力): 自分の考えを整理し、言語化したうえで、わかりやすく説得力をもって表現できる力
- (4) 傾聴力(受け入れる力): 自分と異なる意見にも謙虚に耳を傾け、多様性を尊重しながらより良く問題を解決する力
- (5) 行動力(解決する力): 自分の考えに基づき、失敗を恐れず、他者と協働しながら果敢にチャレンジする力
- (6) 創造力(生み出す力): 既知の知識を統合し、創造力を働かせることで、未知の状況でも目的を達成するための手段を獲得できる力

2 カリキュラム・ポリシー

東京都立戸山高等学校では、探究活動による深い学びとパラダイムシフトにも対応できる幅広い教養と人格を育成します。

- (1) 幅広い興味・関心をもたせ、国際社会に必要な豊かな知識と幅広い教養を身に付けるために、3 年間にわたり文系・理系を区別することなく、すべての教科・科目を学びます。
- (2) 集団の中で他者と協働し、高め合い、自らの責任で主体性をもって行動し、社会に貢献しようとする強い意志と高い志を育成するために、「自主・自立」を基本的な指導の中心とします。
- (3) リーダーシップをもつ総合的な人間力を育成するため、部活動や委員会活動にも力を入れます。

- (4) 6つの力を育成するために、ダイバーシティを意識し、すべての授業でアクティブ・ラーニングやICTを活用します。

3 アドミッション・ポリシー

東京都立戸山高等学校では、以下に該当する生徒を募集します。

- (1) 文系・理系を問わず幅広い興味・関心をもち、豊かな知識・教養と、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力・創造力を併せもつ生徒
 - (2) 集団の中で、他者と協働し高め合い、自らの責任で主体性をもって行動し、社会に貢献しようとする強い意志と高い志をもつ生徒
 - (3) 本校の特色をよく理解し、社会生活を送るために必要なマナーが身に付いており、充実した高校生活を創造し、自己の目的達成の場として本校を強く志望する生徒
- *特に推薦選抜においては、リーダーとして活躍した経験があり、将来にわたり、リーダーとしての資質を伸ばそうとする生徒が望ましい。

II 中期的目標と方策

本校のスクール・ミッションである国際社会に貢献できるリーダーの育成を目指し、戸山の伝統である幅広い知識・教養と創造力を育む教育を実践し、「読む・書く・話す・聞く」の4技能を万遍なく伸ばし、「情報活用能力」や「意思決定能力」の育成やSociety5.0時代に対応した「探究活動」を充実させ、全校体制で「主体的、対話的で深い学び」の実践に取り組む。戸山高校に課せられた、スーパーサイエンスハイスクール（以下、SSH）とチームメディカル（以下、TM）のミッションを踏まえ、STEAM教育の実践、SDGsを意識した教育を実現する。

そのためには、以下の3つの教育実践に、全教職員が一丸となって取り組んでいく。

- 1 『『未来の東京』戦略』を意識した学校経営を行い、TOKYO スマート・スクール・プロジェクト（学び方・教え方・働き方の三大改革）の実現を目指す。
- 2 新学習指導要領に基づきカリキュラム・マネジメントを実践し、従来の一斉授業による知識注入型教育から脱却し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進し、自ら考え、課題解決ができるような学力を育成する。
- 3 教育活動全体を通して、生徒が活動する場面を多く設定することで、知識・理解、暗記力を問う教育ではなく、新たな高大接続改革に対応した思考力・判断力・表現力・創造力・洞察力の育成や「ことの本質を見抜く力」の育成を常に意識した教育活動を行う。また、教員が生徒を見守り、適時適切な助言を行うファシリテーター（学習促進者）となることで、「主体的で対話的な学び」を促し、生徒に自ら考える機会を与え、潜在能力を最大限に引き出す。
- 4 生徒全員が個人端末を所有していることを踏まえ、学校教育におけるオンライン授業、オンデマンド講習及び反転授業等のICTを活用した教育活動並びに学校経営を行い、スマート・スクール構想の実現に向けた取組を行う。

Ⅲ 今年度の取組目標と方策

テーマ 生徒の主体的な学びを促す「自律的な学習者」の育成

1 教育活動の目標と方策

(1) 学校経営・組織マネジメント

今年度の取組目標	具 体 的 な 方 策
ア 学校組織マネジメントを意識した学校経営	① 学年・校務分掌の業務について校内で共有し、SSH 先導的改革期（第Ⅴ期）指定に向けて学校全体で取り組む組織的な教育活動の実践 ② 個人の力量に頼ることなく、組織として業務が遂行できるよう業務の分散化を図り、計画的な人材育成と人材配置（人事異動）の実施（属人的な業務遂行から、組織的な業務遂行への変換） ③ 客観的なデータに基づいた学校経営・校務分掌の推進 ④ 効率的な予算編成並びに執行（選択と集中） ⑤ 教職員の服務事故の根絶と業務の平準化による働き方改革の実現
イ 個人端末等の ICT を活用した生徒の資質・能力を高める教育活動の実践	① 反転学習等、授業方法の改善。家庭学習や長期休業期間中におけるオンデマンド授業の実施、オンライン配信やプロジェクタ等 ICT を活用した授業の実践。生徒間の情報共有による対話的学びの実践 ② ICT を活用した情報収集及び発信 ③ セキュリティ意識の向上と個人情報の漏えい防止のルール遵守
ウ カリキュラム・マネジメントを意識した教育課程の編成	① 課題に対応し、教育目標を達成するための教育課程の検討 ② 全教科・全単元のルーブリックの作成と教科毎に評価規準を統一した観点別評価の実施 ③ 新課程の共通テストに対応した教育課程の編成 ④ 全校的視野をもつ専門家集団としてのカリキュラム委員会の実施 ⑤ 生徒の主体的な学びを促し「自律的な学習者」の育成を目指す、SSH 第Ⅴ期指定に向けた、令和 8 年度入学生の教育課程の編成
エ TOKYO スマート・スクール・プロジェクト（学び方・教え方・働き方の三大改革）の実現	① Wi-Fi 環境の整備により ICT を最大限に活用した密度の高い授業の実践 ② Microsoft 365 を活用した、学校評価やアンケート集計等の実施や部活動指導員のアウトソースの活用 ③ 職員会議等の会議におけるペーパーレス化と電子起案化の推進 ④ 働き方改革により夏休完全消化、有給休暇の年間 15 日以上取得
オ 特色化を意識した教育課程の編成	① 進学指導重点校として難関国公立大学受験に対応した教育課程の編成 ② SSH 及び TM の目的を達成するための取組の開発・実践 ③ 総合的な探究の時間（人間と社会）における体験活動の充実 ④ SSH と TM と連動した STEAM 教育の検討並びに S D G s を意識した教育活動の実施 ⑤ 教科横断型「知の探究（総合的な探究の時間）」における探究活動の充実及び全校指導体制の構築

(2) 学習活動

今年度の取組目標	具 体 的 な 方 策
ア 「東京型教育モデルの実現」	① 板書と講義中心の受動的・一方通行的な授業形態を脱却し、生徒自身が興味を持ったことを主体的に学ぶ方法を各教科で工夫し、生徒が活動する主体的・対話的で深い学びを実践 ② Teams や Forms 等 Microsoft365 を活用した授業実践、及び模試のビックデータを活用した個に応じた学習指導・進路指導の実施 ③ 教育ダッシュボード、統合型校務支援システム（C4th）及び統合型学習支援サービス（0365）の活用
イ 新学習指導要領に対応した授業展開	① 同一科目における評価規準の統一、全定期考査の共通問題化を図り、観点別評価を含めた学習評価の規準を統一する。 ② 新たな大学入学者選抜に対応した教材研究の充実 ③ 大学入学共通テストに対応した学校設定教科・科目の内容の充実
ウ 進学指導重点校としての学力向上に向けた組織的、継続的な取組	① 習熟度授業及び少人数授業、夏期講習等により個々の生徒の学力、進路希望先に合わせた学習指導の推進 ② 成績上位層に向けた授業実践と「高い志望形成」に対する個別指導（志望校を下げない指導）の充実 ③ 入学時からの学力の定点観測と「学力進路データベース」の整備により個々の生徒の状況を全教員で共有し、学力の向上と希望進路の実現 ④ 授業のプロとしての50分の授業における寝かせない授業、他教科学習をさせない授業の実践 ⑤ 相互授業参観期間を活用した指導教諭並びに進学指導研究生を中心とした全教科における授業研究の実施（相互授業参観年間3回実施） ⑥ 中間層・下位層の学力の底上げ
エ AI時代に対応した学力の育成	① リーディングスキルテスト等の結果に基づき、すべての教科において、読解力を育成するための授業内容の再構築 ② 読書活動を通じた思考力・判断力・表現力・創造力の育成 ③ スマート・スクールを意識した個人端末等の活用や Teams 等を活用した授業展開の実施
オ GE-NET20 指定校として4技能をバランスよく育成し、将来国際社会に貢献できるグローバル人財の育成	① オンライン英会話や JET の活用等により、特に「聞く」「話す」力の育成 ② 4技能を測定する外部検定試験（実用英語技能検定等）を全生徒に受験を促し、総合的な英語力を育成するとともに、新たな大学入試に対応。 ③ JET を活用し、現代英語として適切な表現ができる力の育成とともに、理数論文等でも的確な表現ができる力の育成 ④ TGG（Tokyo Global Gateway）を活用したアウトプット場面の設定
カ SSH 経過措置期間における研究の充実と第Ⅴ期指定に向けた取組	① SSH 第Ⅴ期指定に向けて学校全体で組織的な取組を実践 ② 次代の科学技術人材となる「自律的な学習者」の育成を目指し、3年間を通じた探究的な学びを行う、令和8年度入学生からの学校設定科目「スーパーサイエンスⅠ」「スーパーサイエンスⅡ」「スーパーサイエンスⅢ」のカリキュラム開発と内容の充実・見直し ③ 科学の甲子園等のコンテストでの上位入賞、生徒の英語での研究発表回数の増加 ④ 理系女子の研究環境等に関する理解促進と理系女子交流会の開催 ⑤ 海外を含む研究機関や大学等との共同研究や交流、他の SSH 校との連携強化促進 ⑥ 第Ⅳ期の研究を完成させ、第Ⅴ期申請に向けた校内体制の整備

	⑦ SSH クラスの教育課程の保障と研究環境の維持 ⑧ 本校を志望する生徒の希望と募集対策の観点から SSH の再指定対策
キ 「知の探究」の充実	① 「自律的な学習者」の育成を目指し、SSH の研究開発で得た知見を活用して 3 年間を通じた探究的な学びを行う、令和 8 年度入学生からの「知の探究Ⅰ」「知の探究Ⅱ」「知の探究Ⅲ」の内容の充実・見直し ② 全校体制での探究活動の取組体制の構築 ③ 研究発表会実施に向けた準備 ④ 「知の探究」（総合的な探究の時間）の指導力の向上

（３）進路指導

今年度の取組目標	具 体 的 な 方 策
ア 進学指導重点校としての 1 学年からの系統的、組織的な進路指導	① 学習ガイダンス等による丁寧な学習指導の実施により、生徒の高い志を育み、入学時の高い進学目標を維持させ、目標達成に向けた努力を促す。 ② ビックデータを活用した進学対策会議及び志望校検討会議等において進路部が中心となって学年及び教科が個々の生徒情報を共有し、組織的な学力向上と希望進路の実現を図る。
イ 長期休業期間中の講習参加生徒の増加	① 各教科で講習内容を検討し、進路指導部を中心に全校体制で効果的な講習を実施する。 ② 長期休業日中は、部活動、学校行事の準備と講習の両立を図るように生徒指導を行い、講習参加者の増加を目指す。 ③ 早期に長期休業日中の講習の講座数・日程等を生徒に周知し、生徒に長期休業日中の学習計画の作成を促す。
ウ TM の取組みにより、医学部医学科進路希望者への進路実現	① 模擬試験やクラウド等を活用し、個々の生徒の学習状況と学習成果を迅速かつ的確に把握した指導を実施する。 ② 在京の医科大学や医学系研究機関、病院等と連携し、オンラインを含めた生徒向けの講演会、見学会、体験実習等を実施し、課題研究と研究発表会を実施する。 ③ 1 学年から十分な自主学習時間を確保させ、文系科目も含めて基礎基本を取りこぼすことなく学習させる。 ④ TM に参加していない生徒も含め、医学部医学科に対する進路情報を提供し、医学部進学を支援する。
エ キャリア教育の重視	① 学校外の機関や卒業生等からの支援等、外部人材を活用し、進学校としてのキャリア教育の充実を図る。 ② 進学指導重点校としてのミッションだけではなく、社会との接続（トランジション）を意識した見えない学力や見えにくい学力（コンピテンシー）の育成を図る。

(4) 生活指導

今年度の取組目標	具 体 的 な 方 策
ア SNSの適切な利用促進に関する指導の徹底	① 望ましい生活習慣を確立する指導の一環として、生徒が意図せずにトラブルや犯罪に巻き込まれたり、他者を傷つけたりすることのないよう、全教職員があらゆる機会をとらえて「SNS戸山ルール」の徹底を図る。
イ 体罰根絶といじめ・生命に関わる事前防止・早期発見・早期対応の徹底	① いじめ・体罰に関するアンケートを年3回実施するとともに、特に部活動において顧問と外部指導員が連携して体罰や不適切な指導を根絶する体制を構築する。 ② アンケートの結果により、いじめが発覚した場合には、いじめ防止対策委員会を速やかに開催し、初動対応によって重大事案にならないようにスクールカウンセラーを含めた全教職員で組織的な対応を実施する。 ③ 気になる生徒については、些細なことでも見守りリスト等で情報を共有し、サインを見落とさないようにする。 ④ SOSの出し方について周知する。
ウ 戸山ならではの生活指導の充実	① 「自主自立」という名の丸投げや放任ではなく、見守る体制を取りながら、学校生活の充実に向け、生徒の規範意識や公共の精神の向上を図り、生徒自らルール作り等ができるように導いていく。 ② 不登校生徒に対しては、学習機会の提供を図るとともに、担任任せにすることなく組織的にきめ細かな指導を行う。

(5) 特別活動・部活動

今年度の取組目標	具 体 的 な 方 策
ア ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事を通した生徒の主体性の育成	① 本校の伝統である「自主自立」の精神を踏まえ、生徒が自ら課題を見つけ、自ら収集した情報をもとに自ら解決策を考え、自らの意志決定により、問題をよりよく解決していけるよう支援する。 ② 学校行事において、見通しをもって計画的に準備させることにより、質の確保と行事終了後は速やかに学習中心の生活に復帰できるよう指導し、授業や学業との両立を図る。 ③ 特別活動終了後は、必ず振り返りを行うとともに、Forms等の活用によりアンケートを実施し速やかに次年度に向けた反省点を見出していく。 ④ 経営企画室と連携し、会計担当生徒を指導し適切な会計処理を実施する。
イ 部活動を通した健全育成	① 「部活動に関する活動方針」や文化部・運動部活動ガイドラインに基づき、全部活動が週二日以上完全休養日を設定するとともに、短時間で最大限の効果を上げる合理的な活動方法等を工夫することで、学習時間を確保する。 ② 勝利至上主義に陥ることなく、生徒の自主性を尊重した部活動の在り方を意識した指導を実施する。 ③ 部活動ごとに口座を開設し、部費を一元管理するとともに、通帳や会計報告等を定期的に管理職が確認することで、適正な部費の執行・管理を行う。 ④ 教職員の加重負担とならぬように、部活動支援員の活用と業務の平準化を図り、働き方改革を推進する。
ウ 「TOKYO ACTIVE PLAN for students」を参考にした体力向上	① 体育の授業や体育的行事、部活動の充実により体力テストの結果を向上させる。 ② 運動を楽しみながら、自らの体力を向上させる習慣を身に付けさせ、健康の保持・増進に対する意識を高める。

(6) 安心・安全な環境作り

今年度の取組目標	具 体 的 な 方 策
ア 心身の健康と安全に対する意識を高めた健全育成	① 地域と連携した総合防災訓練を行うことで、自助・共助・公助の精神を培う。 ② 自転車使用に関する安全教育指導を行い、自転車通学者の保険の全員加入やヘルメット着用の指導を実施する。また、教員自身もヘルメットの着用に努める。 ③ 「東京都特別支援教育推進計画（第二期）第二次実施計画」に基づき、発達障害等、特別な支援が必要な生徒に対して、合理的配慮に基づく適切な対応を実施するとともに、障害者への理解の促進を図る。 ④ スクールカウンセラーや養護教諭と連携を図り、定期的な教育相談委員会を実施することで、生徒のメンタル面でのサポートを行う。
イ 危機管理の徹底	① アレルギーや疾病のある生徒に関する情報を校内で共有し、危機管理に努める。 ② 生徒のメンタル面における小さなサインを見逃さず、迅速かつ組織的な対応を行う。 ③ 学校事故の未然防止（リスク・マネジメント）と事故初動対応の重要性を理解し、授業や部活動等の体育活動中の事故を未然に防止するとともに、万が一事故が発生した際には、速やかな報告・連絡・相談体制により、被害を最小限にとどめる。 ④ 児童相談所や警察等と連携し、家庭内での虐待が予想される生徒の安全を確保する。
ウ 生徒の変化を見逃さない体制の構築	① 担任やスクールカウンセラーによる全員面接の実施 ② コンディションレポートを活用した支援が必要な生徒の早期発見
エ 保護者との良好な「顔の見える」関係づくり	① Classi 東京都版を活用した保護者向け情報発信と連絡手段の確保 ② 保護者が安心して学校教育への参画できるよう、保護者会を中心とした情報の共有化を図る。 ③ 大学進学に向けた不安を取り除くために3学年における三者面談の原則全員実施（1、2学年は任意とするが、企画並びに広報は実施する） ④ 戸山会（保護者会）との連携の充実 ⑤ 学校評価による保護者の意向の把握

(7) 募集・広報活動

今年度の取組目標	具 体 的 な 方 策
ア 組織的な募集活動の充実	① 本校の特色や強みをデータで提示する等、わかりやすく中学生・保護者へアピールする。 ② 戦略的かつ効果的な募集活動を展開し、学校説明会、学校見学会だけでなく、出前授業や学習塾の出張説明会等積極的に広報活動を実施する。 ③ 私立高校を意識した学校案内の刷新や「都立高校 PR サイト」へのコンテンツ提供、「まなびゅー」や YouTube 等の動画の活用、学校紹介動画の作成等、イメージ戦略を整える。 ④ 学校説明会や学校見学会の広報活動は全校体制で、学校行事として経営企画室職員を含めた全教職員が必ず関わりをもつ。
イ ホームページを中心とした広報活動	① 学校情報を適宜ホームページ掲載等、広報活動を充実させる。 ② カウンター機能を重視し、アクセス件数を把握することで、中学生や保護者の動向を探る。 ③ 在校生やその保護者向けに、適切な内容を随時掲載する。

(8) 経営企画室体制

今年度の取組目標	具 体 的 な 方 策
ア 学校経営への参画	① 学校経営計画の具現化のために工夫を凝らした経営企画室運営を行いながら、学校経営へ参画する。 ② 教員と企画室職員が協働し、積極的な経営参画を図る。 ③ 働き方改革の一環として「費用対効果」と「時間対効果」を意識し、I C Tを最大限活用して業務を遂行する。 ④ 学校の総合窓口として思いやりの心と品格を重んじ、全校の機能をスムーズに調整する。 ⑤ 業務全般を理解するとともに、担当部署のスキルアップを図ると同時に課題意識を常にもち、組織的に業務改善を図っていく。 ⑥ 学校行事や保護者会活動等にも積極的に参画する。
イ 適切な予算執行	① 計画的な予算執行により、円滑な学校運営と予算の有効活用と一般需用費におけるセンター執行率の向上を図る。 ② 教員との連携により、中長期的見通しに立った施設・設備・備品等の更新を図る。 ③ SSH や TM 等の特別予算を計画的かつ適正に予算執行する。 ④ 施設管理において委託業者と連携し、適切な運営を図る。
ウ 関係団体との連携	① 保護者会（戸山会）との積極的な連携を図り、校務運営を支える。 ② 同窓会（城北会）と連携を図り、学校の適切な管理を行う。

2 重点目標と数値目標

重点目標	具体的な数値目標（令和6・5年度達成数値）
学力向上（総合偏差値）	定点観測の11月のベネッセ模試 総合成績における総合偏差値 1年生 74以上 65名 （R06 65名、R05 53名） 68以上 205名 （R06 198名、R05 174名） 60以上 300名 （R06 303名、R05 297名） 2年生 74以上 30名 （R06 20名、R05 30名） 68以上 115名 （R06 101名、R05 115名） 60以上 240名 （R06 237名、R05 238名）
進学指導重点校としての進学実績	① 大学入学共通テスト5教科以上受験者 285名 （R06 272名、R05 284名） ② 同上850点（約85%）以上 52名 （R06 73名、R05 52名） ③ 東京大学現役合格者 10名 （R06 8名、R05 8名） ④ 難関国公立大学（東大・京大・東工大・一橋大・国公立大医学部医学科） 現役合格者 45名 （R06 47名、R05 46名） ⑤ 国公立大学現役合格者 140名 （R06 145名、R05 136名） ⑥ 国公立大学医学部医学科現役合格者 8名 （R06 4名、R05 10名） ⑦ 早慶上理現役合格者 230名 （R06 289名、R05 211名）
募集対策の充実	① 夏の学校見学会（7月）の参加者 3,100名 （R06 2,462名、R05 2,716名） ② 学校説明会（10・11月）の参加者 800名 （R06 1,158名、R05 1,660名） ③ 応募倍率（推薦選抜） 3.50倍 （R06 3.55倍、R05 3.34倍） （学力選抜） 1.80倍 （R06 2.09倍、R05 1.59倍）
SSH 第Ⅳ期指定校としてのSSH事業の充実	① 科学の甲子園等のコンテスト、研究発表会入賞者数 30名 （R06 32名、R05 23名） ② 生徒の英語での研究発表 25件 （R06 43件、R05 23件） ③ 授業公開、地域向け講演会、研究発表会の開催回数 11回 （R06 5回、R05 9回） ④ SSH クラス以外の生徒向け理数講演会、教科融合型の講義、ワークショップ等の開催 13回 （R06 10回、R05 6回） ⑤ 小・中学生向けの理科実験教室の開催 10回 （R06 6回、R05 7回） ⑥ 探究指導研修会の開催 2回 （R06 0回、R05 0回） ⑦ 本校が主催するS Y R s（理系女子交流会）の発表校数と発表者 5校20名 （R06 2校4名、R05 4校19名） ⑧ 本校で開催するT S S（生徒研究成果合同発表会）の発表校数と参加者数 20校350名 （R06 15校254名、R05 12校255名）
Tokyo スマートスクールプロジェクト並びに「東京型教育モデル」の実現	① 暗記中心、チョーク&トークのパッシブな授業形態や過去の成功体験からの脱却した主体的・対話的で深い学びの授業実践 全教職員による実施 100% ② 校内Wi-Fiを活用したICTによる全教職員による授業実践 100% ③ 全教職員によるOffice365の活用実践 100%